

あとがき

桜前線が北上し、今年も卒業・入学シーズンを迎えました。毎年、有為の若者を迎え、修了者を世に出すという活発な代謝が、大学の活力の源であり、また大きな魅力でもあります。しかしながら、我が国では、宮路貫一先生（財団法人・衛星通信教育進行協会理事長）が巻頭言で御指摘されているような、“少子化”問題が大きく取り上げられています。これは、国家レベルで代謝のバランスが傾いたことを意味し、将来の大学運営基盤に少なからぬ影響を与えるものと予想されています。その修復に向けて、多方面からの対策が講じられているようですが、問題の性質上、特効薬は容易には見つからないようです。先生が御指摘のよ

うに、人間愛に基づき、中広い心をもって子供を育てていこうという姿勢を持つことが、一見遠回りのようで、実は最も確実に有効な対策であるのかも知れません。

今月は、原著論文8編、症例報告1例、臨床懇話会記録、内分泌代謝研究会、血液研究会報告を頂きました。東京医科大学雑誌、研究会のレベルも、近年一段と向上しつつあるように思われます。また、「難病治療研究センター」が動きだし、東京医大から世界に向けての情報発信の基盤整備が進行中です。今後に期待したいと思います。

(水口 純一郎 記)

幹事会（要旨）（平成11年1月）

1. 臨床懇話会の開催報告および予定の報告あった。
2. 編集の状況ならびに予定について報告があり、編集の仕方について次のことを討議した。

業績集に掲載する「原著」の取り扱いについて討論したが結論に達せず、懸案事項とした。

英語論文にやむを得ず副題を付ける場合は、本題と副題の間をコロロン（:）で表わすこととした。

論文中の数字及び記号の用い方について次の様に統一することとした。

1 > 1) > ①, : > ;

医学会総会における一般演題の抄録は雑誌の体裁を整えるため、演題申し込み者全員に抄録と共にフロッピーディスクを添えて提出させることとした。

3. 継続審議になっている基金の活用方法について、選考委員会の構成及び選考方法について種々討議した結果、次のことが決まった。尚、委員及び推薦者等については林選考委員長に一任し、更に継続審議することとした。

投稿論文奨励賞 1件 20万円

医学会奨励賞 1件 10万円

編集委員会

洪 谷 健 (会長)
伊 東 洋 (副会長)
小 柳 泰 久 ()
高 山 雅 臣 (庶務幹事)
松 宮 輝 彦 ()
内 野 善 生 (編集幹事)
下 光 輝 一 ()
星 加 明 徳 (会計幹事)
石 丸 新 ()
加 藤 治 文 (監事)
友 田 燁 夫 ()
阿 部 公 彦 (委員)
今 給 黎 篤 弘 ()
遠 藤 任 彦 ()
水 口 純 一 郎 ()
一 色 淳 ()
白 井 正 彦 ()
斎 藤 利 彦 ()
鈴 木 衛 ()
林 徹 ()
J. P. バロン ()
松 岡 健 ()
水 野 文 雄 ()
山 田 仁 三 ()
渡 辺 克 益 ()

平成11年2月10日 印刷

平成11年3月1日 発行

東京医科大学雑誌 第57巻 第2号

発行者 洪 谷 健

発行所 東京医科大学医学会
(東京医科大学図書館内)

東京都新宿区新宿6-1-1

TEL (3351) 6141 (代)

FAX (3354) 3780

印刷所 大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

TEL (3266) 1111 (代)